

2018年12月13日

公益財団法人みちのく未来基金
代表理事および業務執行理事業務報告
 (報告対象期間：2017年10月～2018年9月)

【奨学金給付事業関連】

1. 奨学金の給付状況

第1期生から第7期生までの奨学生に対し、奨学金の給付を実施いたしました。

① 給付人数

第7期給付対象人数および第8期生の給付申請状況は以下の通りです。

◆第7期給付対象者数 (単位：人)

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	322	103	181	17	21
国公立大学	35	19	14		2
私立大学	215	59	130	11	15
短大・専門学校	72	25	37	6	4

【内訳】

		合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	2期生	10	4	6	0	0
	3期生	9	6	2	0	1
	4期生	52	11	35	1	5
	5期生	63	23	34	3	3
	6期生	99	35	49	6	9
	7期生	89	24	55	7	3
国公立大学	2期生	6	3	3	0	0
	3期生	6	4	2	0	0
	4期生	4	1	2	0	1
	5期生	7	4	3	0	0
	6期生	7	4	2	0	1
	7期生	5	3	2	0	0
私立大学	2期生	4	1	3	0	0
	3期生	3	2	0	0	1
	4期生	46	10	31	1	4
	5期生	45	14	26	2	3
	6期生	63	20	35	4	4
	7期生	54	12	35	4	3

短大・専門学校	4期生	2	0	2	0	0
	5期生	11	5	5	1	0
	6期生	29	11	12	2	4
	7期生	30	9	18	3	0

※2018年9月末現在

2018年9月末現在、第2期生から第7期生まで、奨学金給付を行っている人数は上表の通りで、合計322名です。なお、2017年9月から2018年9月末までに、自主退学等の理由により、13名について給付を停止しました。

基金発足時から2018年9月末現在、第1期生から第7期生までの延べ給付人数は727名です。

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	727	251	394	45	37
1期生	96	36	53	6	1
2期生	126	37	79	6	4
3期生	111	46	50	10	5
4期生	104	31	63	2	8
5期生	93	37	43	8	5
6期生	108	40	51	6	11
7期生	89	24	55	7	3

[第8期給付者数見込み]

第8期については2019年3月に80名が卒業予定で、第8期生としての進学希望者が97名いるため、第8期の給付者数は最大で340名となる見込みです。

② 給付予定金額

第8期奨学金給付予定金額

第2期生への年間給付予定金額	3,060千円
第3期生への年間給付予定金額	8,160千円
第4期生への年間給付予定金額	10,200千円
第5期生への年間給付予定金額	55,080千円
第6期生への年間給付予定金額	74,460千円
第7期生への年間給付予定金額	89,760千円
第8期生への年間給付予定金額	139,280千円
給付予定金額総計	380,000千円

第8期の給付予定金額は380,000千円になる見込みです。この3.8億円の試算をベースに年間の資金繰りを行ってまいります。

2. 第8期生の募集状況

2018年4月より、第8期生の募集を開始いたしました。

◆第8期奨学金給付希望者数 (単位：人)

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県外
合計	97	30	53	6	8
国公立	22	8	11	1	2
私立	43	15	24	2	2
短大・専門	29	7	16	3	3
志望校未定	3	0	2	0	1

※上記の表は9月末時点での奨学金給付希望者で、合格後に奨学金の給付が開始されます。基金の調査では、2019年春高校卒業予定の震災遺児は108名で、そのうち進学希望者は90名です。また、2018年春以前に高校を卒業し、現在浪人中の進学希望者が7名いるため、第8期生としての奨学金給付希望者数は合計97名となります。

3. 第8期生以降の対象者の把握

厚生労働省が2015年9月時点の震災遺児の居住地状況を把握したデータから、全国の震災遺児の総数は1,782名（うち岩手・宮城・福島の被災3県以外は171名）となっており、基金で独自に被災3県をはじめ、全国の該当する行政窓口、教育委員会、中央共同募金会（赤い羽根）等、様々な機関へのアプローチを実施した結果、第9期生から第20期生まで合計530名（うち3県以外は45名）について、支援予定者として把握いたしました。

4. 選考委員会の開催

内閣府の公益法人（助成型）の認可要件として、奨学生の認定について公平性・公正性の担保という観点から選考委員会の設置が求められております。これに基づき以下の様に選考委員会を開催いたしました。

「第8期生選考委員会」

2018年9月1日（土） 11:00～12:30 （於：ホテルメトロポリタン仙台 桃李）

・出席委員

杉 昭重 元福島県教育委員会教育長 ・ 元福島県立安積黎明高等学校長
庄司 恒一 元宮城県高等学校長協会会長 ・ 元宮城県仙台第二高等学校長
横田 昭彦 元岩手県立高田高等学校長

・事務局

長沼孝義、竹中俊之、今吉成和

第8期奨学金給付対象者（2019年4月からの奨学金給付開始者）について、東日本大震災の遺児であることの確認、および進学先の承認を諮り、異議なく承認いただきました。

5. 年次面談の実施

2017年10月から12月にかけて、盛岡・東京・仙台の3会場において、奨学生全員との面談を実施いたしました。この面談は、基金スタッフが全ての奨学生の話をお聴きする年に一度の機会

あり、学生生活の様子や困りごとなどを聴き、奨学生の心のケアにつなげることを目的に、基金のもっとも重要な活動となっています。待合スペースにおいて奨学生同士が交流するとともに、サポートスタッフとして多くの奨学生が協力してくれて、資料記入の案内や待合いでの声掛けなどを進めてくれました。

6. 「第7期生の集い」の実施

2018年3月16日から18日にかけて、「みちのく未来基金 第7期生の集い」を実施いたしました。テーマを「みんなの想いで広がる『わ』」とし、奨学生同士やサポーターの皆様方との出会いを通じて、交流の「わ」が一層広がるようにとの願いを込めて開催し、第7期生89名のうち71名が参加しました。今回も企画の段階より奨学生にも参加してもらい、招待状の作成から始まって様々な準備や当日の運営、第7期生のフォローなどを担ってくれて、集いにも77人が集まり、運営を支えてくれました。

また、これまでと同様、今回卒業した第2期生が作成したデザイン、「はなびよ」を集いのシンボルマークとしてスタッフジャンパー等に用いました。

集いの2日目には、第7期生を迎えてレクリエーションと「語りの時間」を実施し、3日目には、第7期生が一人ひとりの夢を発表する「門出の会」を行いました。

あわせて、2018年3月に卒業したみちのく生のための「旅立ちの会」を行い、卒業生87名のうち28名が出席して、一人ずつあふれる想いと社会へ旅立つ覚悟を力強い言葉で話してくれました。

「学生生活では大変なことが多くありましたが、保育士という夢を叶えることができました」

「1年生の時にフラワープロジェクトに参加したおかげで、たくさんのみちのく生と繋がることができました」

「1年間留学しいろいろなことを経験することができ、わぁー生きてて良かったと思うような毎日でした。これからは盛岡で一生懸命働きます」

などのスピーチに、会場からは温かい拍手がおくられました。

7. 夏の交流イベントの実施

奨学生同士の定期的な交流促進のため、2018年6月10日に仙台と東京の2会場にてバーベキューイベントを実施し、両会場あわせて奨学生25名が参加しました。

また、8月25日から26日にかけて、1泊2日で宮城県岩沼市の東京第一ホテル岩沼リゾートにて「夏の集い」を実施し、奨学生17名が参加し、チーム対抗での動画作成や「語りの時間」などを実施しました。

これらのイベントは3月の集いで生まれた奨学生同士の交流をより深め、触れ合える仲間を増やすことを目的としています。各イベントにおいては、学年や出身地等を問わず心を開いて共に楽しく過ごす時間を持つことができ、一層交流が深まりました。

8. みちのく未来基金 SNS の活用

2012年3月より、奨学生同士の交流促進を目的に、専用のソーシャルネットワークサイトを開設しています。奨学生および基金関係者のみ利用可能であるクローズドな空間を構築することで、安心して交流できる環境を整えています。基金からの事務連絡や奨学生同士の交流のツールとして、機能の拡充を図りながら継続活用していきます。

また基金の専用 SNS とは別に、奨学生が自発的に LINE や Facebook 等を用いたコミュニケ

ーションを活用しており、交流会の開催など気兼ねなく話せるコミュニティの活性化につながっています。

【法人運営関連】

9. 寄附金受入状況

寄附金内訳（第7期2017年10月1日～2018年9月30日迄累計）

	金額(千円)	金額比率	件数	件数比率	人数・法人数等	人数・法人数等比率
個人	167,576	27%	11,633	93%	2,135	84%
法人・団体	442,080	73%	856	7%	416	16%
計	609,656	100%	12,489	100%	2,551	100%

基金発足時から2018年9月30日まで、通期では約39億円の寄附が集まっている状況であり、スタッフ派遣企業4社を除いても約32億円の寄附をいただいております。第7期は約6億1000万円の寄附をいただきました。また、第7期より支援企業として新たに9社から申請をいただき、支援企業・団体数は81社となっております。

第7期から新規に申請いただいた支援企業は以下の通りです。

フクビ化学工業(株)、ダイナパック(株)、(株)ピクルスコーポレーション、三菱自動車工業(株)、グリフィスフーズ(株)、(株)カネスエ、(株)フィラディス、コストコホールセールジャパン(株)とをしや薬局

※大口寄附については別紙⑦に記載。

10. 第7期決算報告

※別紙①にてご説明いたします。

11. 広報活動

①「みちのく未来通信」の発行

寄附者や奨学生等の基金関係者に対して、みちのく未来基金の現状をお伝えする広報誌「みちのく未来通信」を、2018年1月（第18号）、2018年4月（第19号）、2018年9月（第20号）を発行いたしました。今後も年間3回の発行を継続いたします。

②各種取材対応

2018年3月実施の「第7期生の集い」については地元地方紙を中心に、複数の報道機関で紹介されました。この他にも各種企業・団体からの問い合わせや取材依頼、説明依頼等に対し、スタッフ全員で対応いたしました。

③ 基金ホームページの改訂

基金のホームページについては随時改訂を行っております。

④ Facebook の利用

月2～3回の頻度で記事の更新を行い、閲覧回数を増やすようにしております。奨学生の閲覧も多く、交流が深まるきっかけともなっています。

1 2. その他特記事項

①サポーター企業・団体への訪問

代表理事を中心にスタッフ総出で、継続してご支援いただいている企業・団体を訪問し、御礼とともに活動状況をご報告しており、第7期においては、2018年9月末までに60社を訪問いたしました。訪問時には、「寄附がどう使われているのか実感を持てた」「これからも支援していきたい」とのお言葉をいただいております、今後も継続的に実施してまいります。

②第1期生全員卒業

2012年4月にみちのく未来基金第1期生として入学した学生のうち、大学院生3名と薬学部生1名が在籍していましたが、2018年3月に全員みちのく未来基金を卒業し、社会へ旅立ちました。

③将来のみちのく生

東日本大震災時お母さんのお腹の中にいた2011年生まれの子どもが、2018年4月に小学校に入学しました。また岩手・宮城・福島県の行政や中央共同募金会等の協力により、新たに90名の将来のみちのく生の情報を入手することができました。

1 3. 第8期事業計画および収支予算の策定

事業年度末までに内閣府に提出する第8期の事業計画および収支予算の策定を行いました。

1 4. みちのく未来基金の運営スタッフ体制について

2017年12月以降、スタッフ派遣企業の定期異動等により、下記のメンバーの変更がありました

- ① 前業務執行理事でカゴメから派遣されていた末田隆司が2017年12月に基金を離れました。
- ② カルビー株式会社から派遣されていた佐藤篤子が2018年3月末に基金を離れました。
- ③ エバラ食品工業株式会社から派遣されていた田中嶋広安が2018年3月末に基金を離れました。
- ④ カルビー株式会社から雫石光彦と嶋瀬紀子が2018年4月から基金スタッフに加わりました。
- ⑤ カゴメ株式会社の今吉成和が2018年9月末で基金業務から離れました。
- ⑥ カゴメ株式会社の小野大騎が、2018年10月より基金スタッフに加わりました。

2018年10月1日現在のみちのく未来基金事務局のスタッフ構成及び業務担当は以下の通りです。

<みちのく未来基金事務局>

長沼 孝義	: 代表理事 (全体責任者)
竹中 俊之 (エバラ食品工業株式会社)	: 業務執行理事 (業務統括)
佐藤 美甫 (契約職員)	: 内務業務 (総務経理事務)
齋藤 雅子 (契約職員)	: 内務業務統括 (会計・奨学金管理)
高田 ひかり (ロート製薬株式会社)	: 学校訪問 (仙台市近郊担当)
武田 康嗣 (カゴメ株式会社)	: 学校訪問統括 (岩手県担当)
雫石 光彦 (カルビー株式会社)	: 内務業務 (寄附金管理)
嶋瀬 紀子 (カルビー株式会社)	: 学校訪問 (福島県・石巻・気仙沼担当)
小野 大騎 (カゴメ株式会社)	: 内務業務 (奨学金管理)

以上